

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101223		
法人名	公益財団法人老年病研究所		
事業所名	グループホームひまわり 2階		
所在地	群馬県前橋市大友町3-22-9		
自己評価作成日	令和元年10月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和元年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安全に安心して楽しく元気に生活できる環境を整え、全職員はホームの運営方針に基づき目標を持ち介護のプロとしての自覚を持ち、利用者の個性を見出し楽しんで頂ける様な工夫特に取り組みながら、四季を感じながら家庭的な配慮も取り入れた生活場所の提供や、気分転換に屋上庭園の利用、毎月お楽しみ会や、季節のイベント、併設の老健施設のイベントへの参加や、地域へのイベントへの参加、祝日や季節に合ったおやつや、自家菜園の収穫した野菜を取り入れた食事をする事で感性豊かに生活出来る環境を提供し、更に併設老健のリハビリ士の訪問を受け共にケアプラン作成に取り組み充実した日々が送れる様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人が運営する事業所は理念を踏まえた介護支援を提供できるように、法人内の各専門職と相談、連携を図り、必要な時にサポートが受けられる体制がある。医療受診、リハビリなどが必要とときには、適切な対応が早い段階にできるため、利用者、家族、職員とも安心した環境で日常の支援につなげている。また、行政、自治体とのパイプをしっかりとつないで、地域行事や併設の老人保健施設のイベントなど各種イベントで、地域の一員として関係交流を図る仕組みがある。職員は認知症学会等に参加し発表などの経験もしながら、より良いケアについて日々学び、アセスメントシート(その日の発見事記録)などを活用して利用者支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101223		
法人名	公益財団法人老年病研究所		
事業所名	グループホームひまわり 3階		
所在地	群馬県前橋市大友町3-22-9		
自己評価作成日	平成30年10月31日	評価結果市町村受理日	令和元年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和元年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安全に安心して楽しく元気に生活できる環境を整え、全職員はホームの運営方針に基づき目標を持ち介護のプロとしての自覚を持ち、利用者の個性を見出し楽しんで頂ける様な工夫特に取り組みながら、四季を感じながら家庭的な配慮も取り入れた生活場所の提供や、気分転換に屋上庭園の利用、毎月お楽しみ会や、季節のイベント、併設の老健施設のイベントへの参加や、地域へのイベントへの参加、祝日や季節に合ったおやつや、自家菜園の収穫した野菜を取り入れた食事をする事で感性豊かに生活出来る環境を提供し、更に併設老健のリハビリ士の訪問を受け共にケアプラン作成に取り組み充実した日々が送れる様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101223		
法人名	公益財団法人老年病研究所		
事業所名	グループホームひまわり 4階		
所在地	群馬県前橋市大友町3-22-9		
自己評価作成日	平成30年10月31日	評価結果市町村受理日	令和元年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	令和元年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が安全に安心して楽しく元気に生活できる環境を整え、全職員はホームの運営方針に基づき目標を持ち介護のプロとしての自覚を持ち、利用者の個性を見出し楽しんで頂ける様な工夫特に取り組みながら、四季を感じながら家庭的な配慮も取り入れた生活場所の提供や、気分転換に屋上庭園の利用、毎月お楽しみ会や、季節のイベント、併設の老健施設のイベントへの参加や、地域へのイベントへの参加、祝日や季節に合ったおやつや、自家菜園の収穫した野菜を取り入れた食事をする事で感性豊かに生活出来る環境を提供し、更に併設老健のリハビリ士の訪問を受け共にケアプラン作成に取り組み充実した日々が送れる様に支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議で職員に周知し理念をホーム内に掲示や個人の名札の中にいれていることで意識を高め、6本の施設運営方針を掲げ事務部長から全職員への説明会を開催して、具体的に取り組んでいる	理念にある、家庭的な雰囲気の中で、「できる力」を大切に、職員は日常及び全体会議で周知を図りながら、支援を進めている。利用者に寄り添い、法人内でのイベントなどに出かけ、外出した時の反応などを参考にして日常生活で話題にしたり、できることを行ってもらったりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に周囲の方へあいさつしたり、推進会議をイベントと抱き合わせ運動会に参加して頂きホーム内や利用者の様子を見て頂き、また地域のイベントへの参加も行っています	近隣に公園があり、利用者と一緒に散歩の折には、行き交う近所の方々との触れ合いがある。また、隣接する法人が運営する老人保健施設やふれあいサロンなどが開催されており、地域住民の方々が参加し、定期的に交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア導入で地域の方に入って頂き認知症の方と関わりを持ってもらい広めている、地域の文化祭に作品展示、見学などを通して関わって頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事やホーム内での様子を報告し利用者家族の方や自治会の方からの意見を活かす、今年度は方針や共同生活の役割など同意、協力を得ている	家族・自治会長・老人会長・市の職員のメンバーで定期に開催し、利用者の状況やインシデントの報告がされている。参加者の意見から「職員の名札使用」を実現した事例があり、面会時や会議出席の方々との関係づくりが図れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	直接市役所へ出向き担当者に面会してアドバイスを受けている、また市の説明会への参加	運営推進会議のメンバーでもある市の職員とは、日常的に相談しやすい関係にあり、市の窓口にも報告や介護保険関係などアドバイスを受けられる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束禁止をしないと法人全体で取り組んでいる、玄関は別部署が使用の為夜間は施錠している	法人全体での取り組みとして、身体拘束をしないケアについて実施している。建物の構造上2階、3階、4階を居住スペースとしているため、エレベーター利用の出入りになるが、各階ごと自由に往来できる広さを確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同業者の情報や市からのパンフレット、新聞記事など話題を提供して注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人勉強会で権利擁護について行われている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族に説明し納得後署名捺印		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの申し出に対しては速やかに対応し管理者からスタッフへ更に毎週行うカンファレンスで全体に流し対応している	希望があれば、日常的に外食・お墓参り・通院など、触れ合う機会への支援をしている。また、直接の意見は減少傾向にあるが、家族会がある。職員は、他のグループホームでの意見などを職員で共有し、参考にした取り組みを検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの意見や提案を面接や全体会議で協議さらに事務部長、理事長へ	管理者は、日常的に職員と相談ができるようにしている。意見のなかから「毎月のイベントお楽しみ会」開催につなげている。	管理者への相談以外の方法も検討され、組織的なチーム構成が図れる環境作りに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者や事務部長から話をしてもらう機会がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な院内研修や院外研修へ参加、研修記録評価用紙に記入		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の勉強会に参加、グループホーム協会県支部研修会への参加にて同業者情報や全国大会参加などを行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	24時間2週間シートをつけて生活パターンの把握に努め話の傾聴につとめる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族からの要望を聞きプランに入れる、今困っていることなどを具体的にアドバイス		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族から得た情報や、個人の観察を職員の共有により日々変化に対応できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	先輩としての知識や古い伝統などを教えていただく場面を取り入れたり、一緒に家事や雑巾縫いをするなどしてお願いする事で、また回想写真の利用なども取り入れたことで職員が教えていただく場面が増えている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時にはホームでの生活を話し家での様子を聞く事や利用者の不安や症状の軽減のための共通の関わり方への協力		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の友達が面会に来ることや、馴染みの床屋、美容院への外出、地域の広報からイベントなど地域の収集	利用者の教え子が訪ねてきてくれたり、家族の希望で現在も入居前に通っていた美容室へ出かけたりなど、利用者の希望に沿う関係者とのつながりがある。事業所内では「気の合う小グループ」を作り、利用者同士の交流が図れる支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はレクや屋上での農作業、近所への散歩、個人の居室に集まって座談会をする場面のセッティング等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の施設や病院に入院されているご家族等会った時には挨拶や、最近の様子等の話を聞く		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の変化の観察や、夕方のミニカンファレンスで個人の変化に対応したケアに向けてスタッフ間の共通認識	夕方の15分を利用者観察とする時間を設けており、発言・行動・職員の対応・利用者の反応を気づきシートに記録している。そうした気づきシートから意向を把握し、カンファレンス時に共有を図りケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族からの情報特に仕事や学歴、家族構成など、本人から時代背景の情報収集などをおこなう		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、日々更新して特に気を付ける情報を入れた送り表の利用		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の変化や観察を、夕方のミニカンファレンスで協議し個人の変化に対応したケア方法の確認、プランの評価をおこなう	介護計画は利用者・家族の希望を把握し、モニタリング、カンファレンスを行い、職員が担当制で作成し、ケアマネジャーが確認している。面会時に介護計画を家族に確認していただき、さらに要望を聞くようにしている。	気づきのシート情報の活用や、モニタリングから修正の必要ある場合には変更計画とするなど、計画書に基づいた介護支援ができる介護計画作成の取り組みに期待したい
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンス参加職員で協議しカンファレンスファイルに閉じ全員が見てチェック、申し送り表を毎日確認		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の状況がケアプランに反映できるように支援		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ネットによる地域のイベントや、前橋市広報からの情報などから職員が情報を得る		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回かかりつけ医が往診に来てくれることで職員も健康面の情報を提供	基本的に、利用者・家族の希望を聞いて継続した医療が受けられるよう説明している。法人の協力医が定期に訪問診療相談、緊急時の訪問サポートする仕組みがあり、利用者の希望を聞いて協力医を主治医としている。歯科や外部への受診(家族支援)もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師なのですべての利用者の報告、情報の共有により健康面管理をしている、職員は救命などの勉強会に参加し医療知識向上に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院からの異動職員がいたり、日頃から病院の職員との関わりイベントなどに参加し良好な関係を築いている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と相談しながら必要時には家族に症状説明してもらえるよう話してあります	利用者、家族の希望があればホームでの看取りもできるとして、この春に1件看取りケアが行われた。主治医と相談しながら必要な医療、環境の提供ができる仕組みがある。看取り支援マニュアルの勉強会に参加している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会やホーム独自の勉強会を行いスキルアップを図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	推進会議で地域の方の参加で防火訓練を行なって協力をお願いし、職員も年2回の訓練に参加、隣接法人との協力	防災マニュアルとその仕組みをもとに行う防火訓練には、地域の方々(民生委員・自治会長・消防員)の参加を得て、火災・水害を分けて実施している。備蓄等もあり、災害対策の取り組みとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人を知ること、個人の人格を大切にしたケアに努め常に人生の大先輩としてみていくことを心がけています	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉・入浴の声かけ・排泄介助など、介護支援を行い、必要ある方には適度なスキンシップから安心した時間を提供し、行動不安の解消に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個人の理解力を知り自己決定しやすいように声かけする工夫や、訴えに耳を傾けられるよう姿勢を見せる工夫		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の訴えを聞き食事時間など希望に沿って支援		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びを一緒にしたり整髪、化粧などを見守る		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に3食食べて味の感想など聞いて、検食簿を担当職員が点検	1ヶ月分の献立は栄養士が作成し、業者に発注している。職員は昼食を一緒にとり、「食べたいものを聞く」機会とし、利用者の意見を反映させている。屋上に菜園があり、実りの時期には収穫し旬の食材をメニューに加えるなど楽しみの1つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記入や残飯の様子や病院栄養士からの指導、支援		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己管理できるまでは自室で、認知度によりホールで口腔ケアをして頂き見守り、介助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時に2週間24時間本人のパターンを調べその情報の基にまた日々の様子で繰り返されること(便失禁)の時間などは早め対応などに取り組んでいます	トイレで排泄できる方も多く、利用者のパターンを把握したうえで、基本トイレでの排泄行為ができるように、トイレ動作前後のズボンの上げ下ろしや清潔の保持、手洗いの声掛けを行っている。排泄のトラブルや不安は、早い対応で軽減を図りできるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分の様子必要なら内服、運度なども取り入れて便調節している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている		同性介助など意向をくみ取り、介護支援ができるようにしている。入浴剤は好みを聞いたりして、気分良く入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は本人の意思を尊重している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤提供書を各フロアに設置、いつでもスタッフが情報収集できるようにしており、内服一覧表もあり、個人は配薬し飲み込み確認をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から得た情報や、個人にあったレク、屋外散歩等を取り入れ気分転換できるようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その時すぐ対応できるのは屋上庭園や、付属病院内の散歩や売店への買い物などにボランティアさんの協力も得て行っています	ごみ出し、近所の公園への散歩、屋上の家庭菜園の活用などで、日常的に外気に触れる機会をつくっている。その他、ショッピングセンターや、花の咲く公園やいちご狩りなど、季節にあわせた非日常の外出の機会もつくっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	付属病院内の公衆電話や売店で切手を購入して手紙を出すなど		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロア入口に下駄箱を置き季節の花やお知らせを掲示し、季節ごと写真つきイベント内容の掲示玄関には利用者の作品掲示をしています	2階・3階・4階にある事業所は、清潔、活動しやすさ、危険回避などを考慮した上でのスペースとしている。廊下には、外出時の写真や掲示物、絵画を飾っている。	理念にも掲げている雰囲気(環境)づくりを、職員で検討し、利用者の要望や職員からのアイデアを実現した取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの自席を居心地良い関係になるような席替えや、常にホールに職員がいることで利用者同士楽しくいられるようにまたみんなで楽しめるDVDなども使用した援助		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に説明し協力していただき、認知の進みや日々の変化に職員はすぐに対応し安全に安心できる居室作りへの工夫	居室内は、家具などが持ち込まれており、利用者・家族の意見も取り入れた配置など、居心地のよさを考えた空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ステーション内に利用者一覧表を掲示、変更時には更新して利用者対応がをスタッフに解るように支援		